

1人・2人世帯の下水道使用料割引を

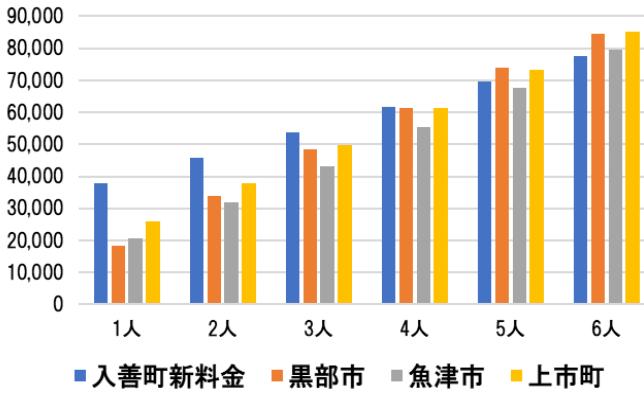
下水道使用料値上げは、多くの町民の不満と党議員団の反対にもかかわらず、12月議会で可決されました。しかし、問題が解決したわけではなく、町当局は4年後にさらに10%値上げをしようとしています。そこで、明らかになった本質的問題と今後の課題を考えてみました。

下水道使用料値上げの問題点

下水道はみんなが毎日使うもので、諸物価が高騰しているので、使用料の値上げはしかたありません。また、人口減少のため、一人当たりの負担が大きくなるのも当然です。

しかし今回の値上げは、物価上昇や人口減少では説明できない大幅な値上げです。その結果、入善町の1人・2人世帯の年間使用料は、他市町に較べてずば抜けて高くなりました。問題が深刻なのは、1人・2人世帯の半数は高齢者だけの世帯だという事です。一方、世帯人員が5人を超えると、逆に安くなります。

世帯当たりの年間使用料

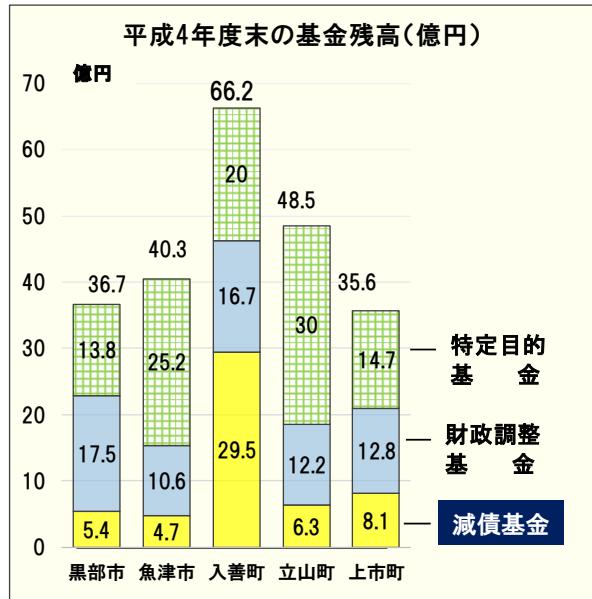


そこで、試しに上市町の料金体系で使用料収入を計算すると、年間約2000万円增收になります。つまり、入善町では不公平な料金を設定しているために、高齢者が割高で、事業収入が少なくなっています。高齢者世帯の使用料割引と料金設定の見直しは緊急の課題です。

財源を有効に使えば値上げを小さくできる

日本共産党議員団は、不足する経費をすべて使用料値上げで賄うのではなく、町の貯金を不足の一部に充てるよう要求しました。

入善町には、他市町よりも多額の基金があります。基金は、一般家庭で言えば貯金です。基金の中の減債基金は、借金が大きくなった時のための貯金です。図は、令和4年度末の基金残高の比較です。



町の貯金は、町民の生活に欠かせない下水道の維持管理にこそ使うべきです。

1人・2人世帯の使用料の割引、財源の適切な使用、および料金体系見直しの議論は避けて通れない課題になっています。

植物暦

ネコヤナギ(猫柳)。ネコヤナギの花言葉は「自由」「親切」「率直」です。これらの花言葉は、その自然な生育環境と柔らかな見た目に由来しています。

つぼみは柔らかくて滑らかで、猫のしっぽのようです。しかし、地域によっては犬を連想してイヌコロと言うそうです。

